

天草の未来を担う子どもたちからの

メッセージ



天草市立五和中学校
3年 小川 環さん

私は、天草市が災害に強い自治体になればいいなと思っています。2年前には熊本でも大きな地震があり、最近では台風・大雨など災害が増え、私たちの

天草も災害に見舞われるのではないかと懸念しています。

津波が起きれば天草を海がのみ込むでしょう。家や建物はもちろん、水産や観光資源、港や橋も壊すかもしれません。孤立してしまふと物資やライフラインが心配です。また、高齢者が多い天草では、避難や身を守るこ

とが難しい人も多いのではないかと思います。古い家や道も多く、安全かと問われると十分とは言えないと感じます。

ぜひとも防災に対してもっと取り組みを強めて欲しいです。具体的には、避難についての標識を増やし、訓練の回数を増やすなどをして欲しいです。私自身も、もっと防災について考えていきたいと思っています。



天草市立天草中学校
3年 関 友恵さん

以前、学校で人生100年時代が来ると学んだ。日本では、2007年生まれの半数が107歳までの寿命と予測されている。65歳で仕事を引退しても余

生は35年もある。

最近、引退後を豊かな自然のある田舎で第二の人生を送る人も多くなってきている。この天草は、そのような人たちにうってつけの魅力ある場所ではないだろうか。なぜなら、天草には、世界遺産に登録された崎津集落や歴史ある観光資源がたくさんある。また、自然も豊かであるからだ。

その魅力を生かすためには高速道路の整備が必要である。高速道路を整備することで、移住してきた人たちに快適な第二の人生を満喫してもらえるようになるし、観光客には気軽に天草の自然や歴史を楽しんでもらえると思う。移住のきっかけにもなる。このことは、天草の人口増加につながるはずである。

編集後記

本年6月に待望の世界文化遺産登録となった崎津集落。8月の崎津観光案内所の来客数は前年比2.5倍の伸びを見せ多くの観光客で賑わいを見せています。しかし、近いところでは三角西港や荒尾においては世界遺産登録の2年後には観光客数が登録前年を下回るといった結果が出ております。

そう考えると天草の観光客数の維持・向上を目指す意味ではこれからの1年間で期待を上回る取り組みが必須なのかもしれない。

今後も多くの観光客で賑わう天草であるために観光協会や観光業の方々はもちろんですが私たち市民一人ひとりが「九州一の観光の島」であることを再認識し、天草の魅力伝える伝道師となり、おもてなしの心を胸に天草を盛り上げていきたいものです。



広報広聴委員会

- 門口 徹
- 濱洲 大心
- 副委員長 下田昇一郎
- 委員長 柴田 誠
- 蓮池 良正
- 宮下幸一郎
- 五通 俊作